



キャッチフレーズ

みんなの思いや 心が見える まちづくり

第5期計画で力を入れたいこと

1 思いやりや 心づかいを行動に移して つながるまちに

具体的な活動

- 1 地域の子どもの声や、取組を実現する「地域と何ができる会」の開催と継続
地域活動「LCT! (Let's Clean Tsurumi)」の拡大
- 2 多世代交流会を開催し、子どもたちを地域で見守り育てる
「学んでご飯」、集いの場所「はな♡そうカフェ」の充実
- 3 地域の見守り活動を、一人ひとりに知ってもらう
声かけ缶バッジ、自治会・町内会による様々な取組や見守り活動



はな♡そうカフェ

缶バッジ



2 お互いに認めあい 支えあいながら 地域力を高めよう

具体的な活動

- 1 世代を超えた連携で、防災意識を高める
各自治会・町内会で実施する防災訓練
- 2 多世代の交流を通じて、安全で安心して暮らせる私たちの町に
お楽しみ福祉大会、若いも若きも健康づくり
- 3 障がい理解し、誰もが暮らしやすい町に
障がいの理解講座による啓発



防災拠点訓練



お楽しみ福祉大会

第5期計画はこのようにつくりました

- 1 第1回～第3回寺尾第二地区あいねっと準備会（2月～4月）
地区社協会長、副会長、事務局長と計画案の検討を重ねる
- 2 寺尾第二地区懇談会（令和7年6月16日）
自治会・町内会長や民生委員児童委員の皆様と意見交換を実施
- 3 第3回地域と何ができる会（令和7年7月18日）
小・中学校の児童や生徒と地域のために何ができるか意見交換



あいねっとに関するご意見箱



赤門まつり



桜まつり



鶴見配水池（通称ねぎぼうず）



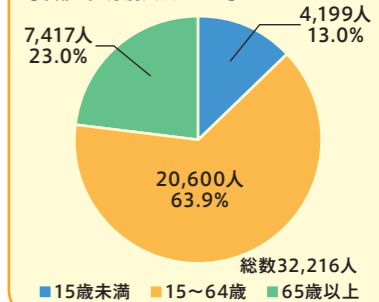
せせらぎ緑道

出典「横浜市統計ポータルサイト」、「住民基本台帳」（令和7年9月末日現在）※集計上の誤差があり、実際と一致しない場合があります。

DATA

北西部に位置し、寺社や史跡などの歴史資源や自然に恵まれた住宅地です。山坂が多く、交通はバスが中心です。近年、戸建てやマンションが建設され、子育て世帯が増えています。馬場地域ケアプラザが地域活動の中心になっています。

【年齢3区分別人口グラフ】



これまでの計画（第4期）の振り返り

世代を超えて未来につなごう 地域の輪

コロナ禍で、これまで行われていた行事などが中止になる中、小・中学生にアンケートを取ってみると、行事などに対する記憶が薄れていることが浮き彫りにされました。また、主催者側も行事開催のノウハウの引き継ぎなどがうまくいっていないことがわかりました。

目標① 思いやりで若いも若きも支え合おう

- ・「地域で何ができる会？」で、子どもたちの要望が多かった“みんなが自由に憩える場が欲しい”に応えるべく“はな♡そうカフェ”（なんでもはなせる、地域がよりそう場）の開催の提案をし、子どもたちの意見を最大限取り入れたカフェを立ち上げました。
馬場地域ケアプラザ全館に子どもたちの声や、地域の人たちとの交流が行われています。
- ・3種類あった缶バッジのデザインを統一しわかりやすくしました。
- ・向こう三軒両隣近所同士の力を借りて見守り活動の強化を目指し、連合内で「地域つながり活動連絡会」（通称：つな連）を開催して、互いの自治会・町内会の良いところを取り入れました。
地域の見守りは、各自治会・町内会で組織を立ち上げ、年間数回の連絡会議を実施し、見守りマップを作成し、日ごろからの見守りを強化しました。

目標② 誰もが絆を深めて、地域力を高めよう

- ・中学生と取り組む地域清掃「LCT! (Let's Clean Tsurumi)」が発足しました。地域の上の宮中学校の福祉委員が中心となって考えたLCT!は、清掃しながら自然や歴史にも関心が持てるよう「寺尾奉行マップ」を利用したスタンプラリーを取り入れました。
- ・地域と子どもたちの距離が縮まり、防災訓練や認知症の症状の理解や対応方法について共に学習する「認知症サポーター養成講座」の実施など活動の範囲が広がっています。
- ・障がいに対する理解を共有し共に住みやすい環境が作れるようにする第一歩の「障がいの理解講座」を実施しました。



LCT! (Let's Clean Tsurumi)